

7.指標

基礎数値 (令和6年3月31日)

瑞穂市人口	56,274	人
個人登録者数	46,660	人
うち市内登録者数	35,614	人
蔵書冊数	251,448	冊

年間受入冊数	7,144	冊
年間購入冊数	6,959	冊
貸出点(冊)数	417,562	点
資料購入費(決算額)	14,076	千円
予約件数	27,796	件

※蔵書冊数・年間受入冊数・年間購入数は雑誌・視聴覚除く

※貸出点(冊)数・資料購入費・予約件数は雑誌・視聴覚含む

※県内市図書館の平均は「令和4年度 岐阜県内公共図書館・町村図書室調査集計表」より抜粋

項目	瑞穂市図書館	県内市図書館の平均
①登録率 (市内登録者数/人口×100)	63.29 %	57.98 %
②人口一人当たりの蔵書数 (蔵書冊数/人口)	4.47 冊	4.33 冊
③人口一人当たりの年間受入図書冊数 (年間受入図書冊数/人口)	0.13 冊	0.13 冊
④人口一人当たりの年間購入図書冊数 (年間購入図書冊数/人口)	0.12 冊	0.12 冊
⑤人口一人当たりの貸出冊数 (貸出点(冊)数/人口)	7.42 冊	4.88 冊
⑥人口一人当たりの資料費(2023年度決算額) (資料費/人口)	250.13 円	246.69 円
⑦予約貸出率 (予約件数/貸出点(冊)数×100)	6.66 %	6.24 %
⑧実質貸出密度 (貸出点(冊)数/登録者数)	8.95 点	9.5 点
⑨蔵書回転率 (貸出点(冊)数/蔵書冊数)	1.66 回	1.21 回
⑩貸出1冊にかかる資料費(2020年度決算額) (資料費決算額/貸出点(冊)数)	33.71 円	52.67 円

⑦ 造成費

只越地域は農地であり、宅地造成が必要となることから、造成費を見込みます。

新庁舎整備費の試算のとおり、軟弱地盤を考慮した杭工事の費用を見込み、建物は自立することを前提とするため、造成費は薬剤注入による地盤強化等ではなく、土の入れ替え程度と仮定して、費用を見込みます。

算出に当たっては、刊行物建築コスト情報（2021冬）に基づき、土工事（根切り・盛土・発生土処理）の施工単価を活用し、諸経費率を見込むことで算出します。

諸経費率は、土木工事における一般管理費等及び現場管理費率の合計値が約60%～24%であることを考慮し、60%を採用とします。

敷地規模は、穂積・穂積第2グラウンドと同様の規模とし、新庁舎・駐車場の確保が容易になると考えられる25,000㎡とし、深さは2mと仮定します。

■刊行物建築コスト情報（2021冬）の土工事（根切り・盛土・発生土処理）の単価

参考			地域	施工単価（円/㎡）
根切り※13	機械掘削 （切りばり※14 1段）	深さ5.5m未満	名古屋	850
盛土	盛土	建物から20～30m に仮置	名古屋	820
発生土処理 （残土）	場内敷きならし		名古屋	720

(3) 概算事業費の算出結果

前述の算出条件も踏まえ、各建設候補地での概算事業費を以下に示します。

■各建設候補地における概算事業費の算出結果（百万円）

	1 穂積 庁舎南側 駐車場	2 穂積 庁舎第2 駐車場	3 旭化 成グラウ ンド	4 巢南 グラウン ド	5 穂積・ 穂積第2 グラウン ド	6 只越 地域
①新庁舎建設費	5,785	5,785	5,785	5,785	5,785	5,928
②仮設庁舎建設費	80					
③解体撤去費	139	139	139	139	139	139
④土地取得費		312	505			1,193
⑤浄化槽整備費			155		155	155
⑥下水道延長整備費				9		
⑦造成費						191
	6,004	6,236	6,584	5,934	6,079	7,606

6. 各候補地における整備のメリット・デメリットの比較

		穂積駅周辺		旭化成周辺	巣南庁舎周辺	【新規追加】	
		1 穂積庁舎南側駐車場	2 穂積庁舎第2駐車場	3 旭化成グラウンド	4 巣南グラウンド	5 穂積・穂積第2グラウンド	6 只越地域
		仮設庁舎を建設後、現穂積庁舎を解体撤去し、現有地にて新庁舎を建設	当該敷地を地権者から取得し、新庁舎を建設後、現穂積庁舎を解体撤去し、駐車場として利用	当該敷地を地権者から取得し、新庁舎を建設	新庁舎を建設	新庁舎を建設	想定区域内の敷地を地権者から取得し、新庁舎を建設
配置図(想定)							
整備のしやすさ	建物形態・配置の自由度	◎仮設庁舎に移転したのち、現庁舎を解体撤去し、整備するため、一定の敷地規模が確保でき、柔軟な建物形態・配置等の計画が可能	○敷地面積が狭小なため、建物形態・配置に限られ、基本的に4階建て(一部2階建て)となる	◎敷地は比較的狭いが、日影規制はないため、柔軟な計画は可能	○現庁舎への日影の配慮のため、建物配置・形態に限られ、基本的に3階建てとなる	◎敷地は広く、柔軟な建物形態・配置等の計画が可能	◎想定区域は広く、活用する敷地の自由度もあり、柔軟な建物形態・配置等の計画が可能
	駐車場の確保	○必要台数700台程度に対し、520台程度が確保でき、180台程度不足する可能性がある	○必要台数700台程度に対し、520台程度が確保でき、180台程度不足する可能性がある	○必要台数470台程度に対し、260台程度が確保でき、210台程度不足する可能性がある	○必要台数500台程度に対し、20台程度不足で済む。(巣南庁舎を転用利用する場合、別途駐車場の確保も必要)	◎必要な駐車場の台数以上の確保を敷地内で達成できる	◎想定範囲は広く、必要な駐車場の台数を確保できるような敷地の活用が可能
	土地に係る手続き・調整	◎市有地であり、活用しやすい	○地権者との土地取得の調整が必要	○地権者との土地取得の調整が必要	◎市有地であり、活用しやすい	◎市有地であり、活用しやすい	△地権者との土地取得の調整のほか、農地であり農地転用が必要 市街化調整区域のため、市街化編入等の検討が必要
立地環境の良さ	公共交通の利用	◎穂積駅から近く、バス路線も充実している	◎穂積駅から近く、バス路線も充実している	△駅からは遠い	△駅からは遠い	△駅からは遠く、付近に名阪近鉄バスが通っているがバス停まで距離はある	○穂積駅から概ね徒歩圏内
	自動車でのアクセス性	○市域の東部に寄っているが、市域は狭いため、一定のアクセス性はある	○市域の東部に寄っているが、市域は狭いため、一定のアクセス性はある	◎市域の中心にあり、多方からの自動車アクセスがしやすい	○市域の西部に寄っているが、市域は狭いため、一定のアクセス性はある	○市域の南部に寄っているが、市域は狭いため、一定のアクセス性はある	◎市域の中心にあり、多方からの自動車アクセスがしやすい
	災害時における安全性	○洪水想定最大規模は、3m~5m、5~10mの箇所があり、他候補地と同様の危険性	○洪水想定最大規模は、5~10mであり、他候補地と同様の危険性	○洪水想定最大規模は、5~10mであり、他候補地と同様の危険性	◎洪水想定最大規模は、0.5~3mであり、他候補地と比較して安全	○洪水想定最大規模は、5~10mであり、他候補地と同様の危険性	○洪水想定最大規模は、3m~5m、5~10mの箇所があり、他候補地と同様の危険性
まちづくりへの寄与	まちづくり計画との整合	◎周辺は市の中心市街地である都市拠点に位置づけられており、都市機能の充実等に寄与できる	◎周辺は市の中心市街地である都市拠点を位置づけられており、都市機能の充実等に寄与できる	△周辺は特に拠点としての位置づけはない	○周辺は地域拠点に位置づけられており、土地の高度利用等に寄与できる	△周辺は特に拠点としての位置づけはない	○周辺は市の中心市街地である都市拠点を位置づけられており、都市機能の充実等に寄与できる
	周辺環境への影響	◎従前も庁舎が位置しており、周辺環境への影響は少ない	◎従前も庁舎が位置しており、周辺環境への影響は少ない	○敷地の周りは閑静な低層住宅地との距離も近く、交通・騒音等の配慮が必要	○庁舎が位置することは従前と同じだが、現巣南庁舎建物との機能の住み分けや、巣南グラウンドの廃止等の調整が必要	○敷地周りは工場や商業施設であり、周辺環境への影響は少ないが穂積・穂積第2グラウンドの廃止等の調整が必要	○敷地周りは農地であり、農業の営みを阻害しないような配慮が必要
財政負担の軽減	既存インフラの活用	◎上水道、下水道ともに周辺に整備されており、既存インフラの活用が可能	◎上水道、下水道ともに周辺に整備されており、既存インフラの活用が可能	△上水道は整備されているが、下水道は周辺に無く、浄化槽の整備が必要	○上水道は敷地全面まで整備されているが、下水道は街区北側までとなっており、引き込みが必要	△上水道は整備されているが、下水道は周辺に無く、浄化槽の整備が必要	△上水道は整備されているが、下水道は周辺に無く、浄化槽の整備が必要
	概算整備費	◎約60.0億	○約62.4億円	○約65.8億円	◎約59.3億円	◎約60.8億円	△約76.1億円